ISSN 1346-7506

令和４年度(2022)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
花･野菜技術センター年報

令和５年６月

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部　花・野菜技術センター

令和４年度
花・野菜技術センター年報
目　　次

Ⅰ　総　説
１．沿革……1
２．位置および土壌……2
３．用地および利用区分……2
４．機　構　（令和５年３月 31 日現在）……2
５．職　員……3
６．収入支出決算額……4
７．建　物……4
８．施設および備品……5
Ⅱ　作　況
１．気象概要……6
２．野菜類の生育状況……6
Ⅲ　事業の推進方向と成果の概要
１．研究部……9
２．技術普及室……10
Ⅳ　試験研究および地域支援等活動の課題名
１．花き野菜に関する試験……12
２．栽培環境に関する試験……12
３．病害虫に関する試験……13
４．地域支援に関する試験等……14
Ⅴ　研修事業の概要
１．概　要……15
２．研修事業の推進……15
３．北海道花き・野菜技術研修……15
４．研修ほ場等作付概要……18
Ⅵ　研究発表並びに普及事項
１．研究報告・資料……19
２．印刷刊行物……20
３．普及事項……20
Ⅶ　その他
１．職員の研修……21
２．見学・参観……21
３．研修生の受入れ（研修事業以外）……21
４．委員会活動……22
５．公開デー2022……23
６．講師等の派遣……23
７．各種委員……23
Ⅷ　自己点検への対応……24

Ⅰ　総　　説

１．沿　革

(1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成８年度に設立された。

試験研究では、北海道立総合研究機構の農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成４年度に調査費、同５年度には設計費が予算化された。平成６年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同７年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成８年度に残したが、同年３月には「北海道立農業試験場条例」を改正、４月に職員が配置され、業務を開始した。８月 30 日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成９年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成 10 年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

(2) 組織機構の変遷

平成８年４月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の２部１室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成 12 年４月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成 22 年４月、22 道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、３グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

(3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成８年度は花き２科、野菜２科、土壌肥料科、病虫科の６科体制であったが、平成 12 年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の４科体制となった。平成 18 年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成 22 年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループの３グループ体制となった。令和２年度からは生産環境グループの名称が生産技術グループに変更された。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場として、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

(4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成８年度の準備期間を経て、平成９年度から本格的に研

修事業を開始した。平成 12 年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成 22 年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成 8 年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成 12 年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成 18 年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成 22 年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

２．位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′　東経141° 59′

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

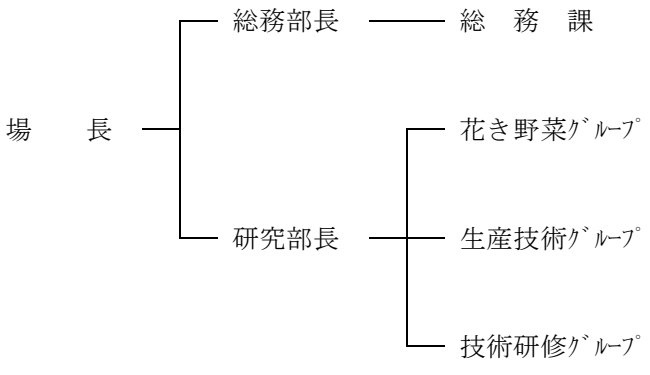
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層(40cm)は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材(炭カル)を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

３．用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

４．機　構　（令和 5 年 3 月 31 日現在）



庶務・財務に関する業務

花・野菜の高品質安定生産に向け、新品種の育成や品種特性調査、新作型開発、栽培法の改善などの研究業務

土壌肥料、貯蔵・流通技術に関する試験研究や病害虫に関する調査・試験研究業務

農業者や技術指導者等を対象とした技術研修や開発された技術の体系化と普及定着化および作業計画、労務・ほ場・機械等の管理業務

花・野菜技術センター技術普及室　　普及センター等への支援、専門技術の調査研究

・北海道農政部生産振興局技術普課　　上席普及指導員　－　主任普及指導員

・花・野菜技術センター研究部技術研修グループ　研究主幹　－　主査（技術研修）

５．職　員

(1) 職員数　（令和5年3月31日現在）

区　分	場　長	部　長	総務課	花き野菜G	生産技術G	技術研修G	計
研　究（ﾌﾟﾛﾊﾟｰ）	1	1		6	6	2	１５
研究支援（ﾌﾟﾛﾊﾟｰ）						4	4
研究支援（道派遣）		1	3			2	6
計	1	2	(兼務1外数) 3	6	6	8	２５

(2) 現職員名簿　（令和5年3月31日現在）

所　属	職　名	氏　　名	所　属	職　名	氏　　名
	場　　長	堀田　治邦	技術研修G		菅原　章人
総務部	総務部長	柴田　剛志	〃	研究主幹	八木　亮治
総務課	総務課長(兼)	柴田　剛志	〃	主査(技術研修)	齊藤　優子
〃	主査(総務)	山本　　修	〃	主査(研修)	北村　憲吾
〃	主査(調整)	齊藤　吉明	〃	専門主任	静川　拓海
〃	技　　師	髙﨑真利奈	〃	主　　任	井口　岳人
研究部	研究部長	鈴木　亮子	〃	〃	南　　貴夫
花き野菜G	研究主幹	林　　哲央	〃	〃	北　　和宏
〃	主査(花き)	大宮　　知			
〃	主査(野菜)	田縁　勝洋			
〃	主査(施設)	大久保進一	技術普及室		
〃	研究職員	漆畑裕次郎	北海道農政部生	上席普及指導員	川口　招宏
〃	研究職員	阿部　純也	産振興局技術普	主任普及指導員	佐藤　元紀
生産技術G	研究主幹	古舘　明洋	及課		
〃	主査(栽培環境)	長田　　亨	技術研修G	研究主幹	菅原　章人
〃	研究主査	野田　智昭		主査(技術研修)	八木　亮治
〃	主査(病虫)	佐々木　純			
〃	研究主任	藤根　　統			

(3) 転入・採用

職　　名	氏　　名	採用転入年月日	備考
研究部長	鈴木　亮子	4.4.1	上川農試研究部生産技術G
研究部技術研修G　研究主幹	菅原　章人	4.4.1	原子力環境センター
研究部技術研修G　主査（技術研修）	八木 亮治	4.4.1	十勝農試研究部生産技術G
研究部技術研修G　主任	井口　岳人	4.4.1	北見農試研究部麦類畑作G
研究部花き野菜G　研究職員	阿部　純也	4.4.1	新規採用

(4) 転出・退職

職　　名	氏　　名	転出退職年月日	備考
研究部長	三好　智明	4.3.31	道南農業試験場
研究部生産技術G　主幹	小宮山誠一	4.3.31	中央農業試験場
研究部花き野菜G　主査(施設)	地子　立	4.3.31	退職
研究部生産技術G　専門研究員	柿崎　昌志	4.3.31	退職
研究部技術研修G　主任	玉川　忠	4.9.30	退職

６．収入支出決算額

(1) 収入決算額

（単位：円）

科　　目	決　算　額
技術普及指導手数料	381,866
農産物売払収入	284,000
不用品売払収入	120,500
法人財産使用料等	374,634
その他雑収入	150
共同研究費負担金	0
国庫受託研究収入	0
道受託研究収入	1,873,445
その他受託研究収入	7,073,000
施設整備費補助金収入	0
計	10,107,595

※事業費支弁人件費振替額を含まない

(2) 支出決算額

（単位：円）

科　　目	予算額	決算額	繰越額	残　額
戦略研究費	0	0	0	0
重点研究費	13,336,691	13,189,067	0	147,624
職員研究奨励費	0	0	0	0
経常研究費	6,827,000	6,357,275	0	469,725
研究開発推進費	0	0	0	0
技術普及指導費	5,856,866	5,855,215	0	1,651
研究用備品整備費(積立金)	2,750,000	2,750,000	0	0
維持管理経費（研究）	1,035,000	1,035,000	0	0
維持管理経費	81,630,000	77,576,943	0	4,053,057
運営経費	49,424,000	48,915,695	0	508,305
共同研究費	0	0	0	0
国庫受託研究費	0	0	0	0
道受託研究費	1,874,000	1,873,445	0	555
その他受託研究費	6,455,000	6,452,907	0	2,093
施設整備費補助金	0	0	0	0
施設整備費（繰越積立金）	0	0	0	0
計	169,188,557	164,005,647	0	5,183,010

※事業費支弁人件費振替額を除く

7．建　物

(1) **現有**（令和5年3月31日現在）

名　　称	構　　造	面積(㎡)	名　　称	構　　造	面積(㎡)
事務庁舎	レンガ造2階	449.86	研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36	展示温室	鉄骨平屋	118.87
農機具格納庫	木造平屋	233.00	研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
総務課第２車庫	〃	43.74	参観者トイレ	鉄骨平屋	37.96
庁舎２号物置	〃	49.58	花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
第２運動器具庫	〃	24.79	病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
運動具庫	〃	5.04	保鮮実験棟	〃	232.80
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69	花き・野菜詰所	〃	141.62
管理科職員詰所	木造平屋	106.92	床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46	農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
農業機械格納庫	〃	569.16	電気室棟	〃	66.30
総合車庫	〃	187.20	花き温室－１	〃	166.00
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25	〃　－２	〃	166.00
総務課倉庫	木造平屋	43.74	〃　－３	〃	166.00
圃場避難棟－１	〃	29.16	野菜温室－１	〃	166.00
〃　－２	〃	29.16	〃　－２	〃	166.00
総務課物置３	木造平屋	26.46	〃　－３	〃	166.00
〃　４	〃	26.46	病虫温室	〃	166.00
〃　５	〃	14.87	土肥温室	〃	166.00
第２研修寮	ブロック造平屋	122.50	研修温室－１	〃	290.25
第２研修寮物置	木造平屋	9.93	〃　－２	〃	290.25
第２堆肥舎	鉄筋コンクリート平屋	128.00	環境制御温室－１	〃	166.00
			〃　－２	〃	166.00
			人工気象室	〃	80.18
			ミスト室	〃	164.20

8．施設および備品

(1) **新たに設置した施設**

名　　称	構造	数量	新設年月日	価　　格	摘　　要
な　し					

(2) **新たに購入した備品**（50万円以上）

品　　名	数量	規格および型式	金　額	配　置
スーパーラダー	１台	ＰｉＣａ	563,200	総務課
超低温フリーザー	１台	ＰＨＣ株式会社 MDF－DU702 VX－PJ	2,750,000	生産技術G
ルームエアコン	２台	MSZ-HXV8022S－W MSZ-HXV7122S－W	737,000 726,000	総務課

Ⅱ　作　況

１．気象概要

(1) 冬期間の経過

冬期間（11 月～3 月）の平均気温は 11 月上旬から 12 月中旬にかけて高かった。1 月上旬～2 月下旬にやや低めに推移した。降水量は 11 月から 1 月に多く、3 月上中旬にやや少なかった。日照時間は 11 月～12 月にやや多く推移し、2 月下旬～3 月下旬に少なかった。その他は平年並であった。

(2) 農耕期間の経過

農耕期間（5 月から 9 月）の平均気温は概ね平年よりやや高めに推移した。農耕期間の積算気温は 2,833 ℃で平年の 103 %とやや高めであった。

降水量は 7 月に少なかったが 6 月と 8 月に多く、農耕期間を通しての積算降水量は 683 ㎜で平年の 112 %であり、多雨傾向にあった。特に 6 月下旬、8 月上旬と中旬に各々100 ㎜以上の降水があった。

日照時間は 6 月下旬と 7 月中旬に少なかったが、概ねやや多めに推移した。農耕期間を通しての積算日照時間は 913 時間で平年の 106 %であった。

本年の農耕期間の気象は、気温、日照時間、降水量とも若干多かったが概ね平年並みであった。

(3) 月別の経過

4 月：平均気温は上旬と中旬に高かった。降水量は上旬と下旬に少なかった。日照時間は上旬と下旬に多かった。

5 月：平均気温は中旬にやや高かったが概ね平年並であった。降水量は上旬と下旬に多かった。日照時間は中旬に多く、下旬に少なかった。

6 月：平均気温と最低気温が下旬に低かった。降水量は下旬に 115 ㎜と極めて多かった。日照時間は上旬に多く、下旬に少なかった。

7 月：平均気温、最高気温、最低気温とも上旬とに平年より 3℃程度高かったが、中下旬は平年並みに推移した。降水量は上旬と下旬に少なく、特に下旬は 1㎜と極めて少なかった。日照時間は上旬に多く、中旬に少なかった。

8 月：平均気温、最高気温、最低気温とも概ね平年並みに推移した。降水量は上旬に 110 ㎜と平年の約 2 倍あり、中旬にも 123 ㎜と極めて多かった。㎜で平年の 24 %であった。日照時間は上旬に平年の 57%と少なった。

9 月：気温は中下旬に高く推移した。降水量は上旬に極めて少なかった。日照時間は平年より多く推移し、特に上旬に多かった。

10 月:気温は上中旬に平年よりやや高めに推移した。降水量は中下旬に少なかった。日照時間は下旬にやや多かったが、概ね平年並みであった。

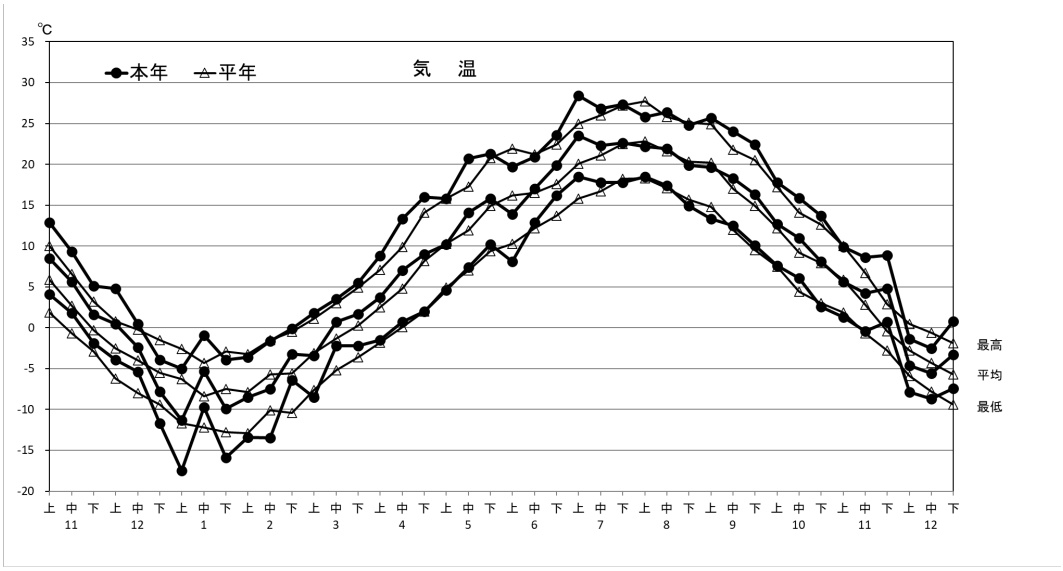
２．野菜類の生育状況

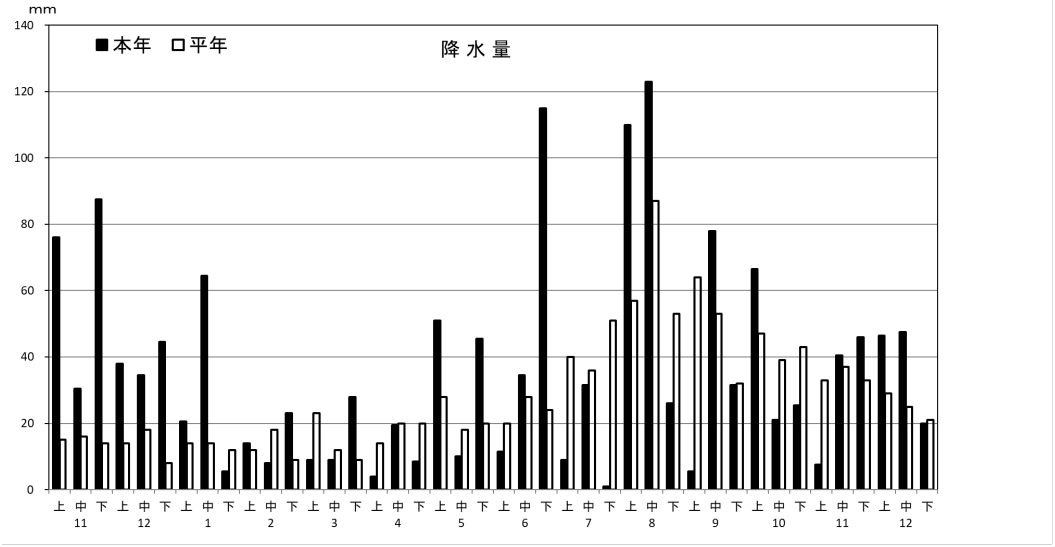
(1) いちご（対象品種：「けんたろう」）

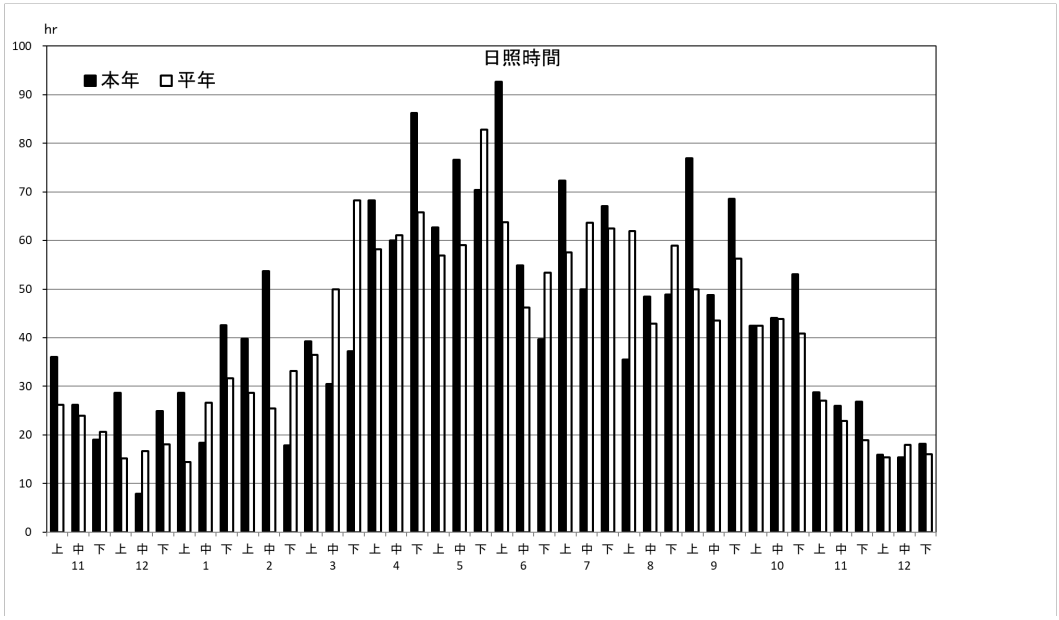
令和 3 年 8 月 23 日定植の無加温ハウス作型で土耕栽培した。定植後の平均気温は概ね平年並みに推移した。ハウス天井フィルムを被覆した 3 月時点の積雪深は平年より約 1 割少なかった。「けんたろう」の開花始期は 4 月 14 日で平年より 2 日早かった。これは 3 月下旬から 4 月上中旬までの気温が平年より高かったことに起因する。

4 月下旬と 5 月中旬の平均気温も平年より高く、日照時間は 4 月下旬から 5 月中旬まで高く推移した。このため、生育が進み、収穫始期は 5 月 14 日となり平年より 6 日早かった。

5 月下旬の平均気温は平年よりやや低く、6 月上旬の平均気温が平年より 2.3 ℃低く、規格内一果重は 15.1 g で平年より大きかった。規格内収穫果数は 205 千個/10a で平年より多かった。総収量は 4,320 kg/10a で平年より多く、規格内収量は 3,077 kg/10a で平年より多かった。Brix（屈折計示度）は 9.6 %で平年よりやや高かった。







滝川気象図（令和３年 11 月～令和４年 12 月）

気　象　表　　（令和3年11月～令和4年12月）

年	月	旬	平均気温（℃） 本年	平年	比較	最高気温（℃） 本年	平年	比較	最低気温（℃） 本年	平年	比較	降水量（mm） 本年	平年	比較	降水日数（日） 本年	平年	比較	日照時間（時間） 本年	平年	比較
		上	8.5	5.9	2.6	12.9	10.0	2.9	4.1	1.9	2.2	76	15	61	5	5	0	36.0	26.2	9.8
	11	中	5.6	2.7	2.9	9.3	6.6	2.7	1.8	-0.7	2.5	31	16	15	8	6	2	26.2	23.9	2.3
R3		下	1.6	-0.3	1.9	5.1	3.2	1.9	-1.9	-2.9	1.0	88	14	74	8	6	2	19.0	20.6	△ 1.6
		上	0.5	-2.5	3.0	4.8	0.8	4.0	-3.9	-6.2	2.3	38	14	24	5	6	△ 1	28.7	15.2	13.5
	12	中	-2.4	-4.0	1.6	0.5	-0.2	0.7	-5.4	-8.0	2.6	35	18	17	7	6	1	7.9	16.7	△ 8.8
		下	-7.8	-5.5	△ 2.3	-3.9	-1.5	△ 2.4	-11.7	-9.4	△ 2.3	45	8	37	10	6	4	24.9	18.1	6.8
		上	-11.3	-6.3	△ 5.0	-5.0	-2.6	△ 2.4	-17.5	-11.7	△ 5.8	21	14	7	7	5	2	28.7	14.4	14.3
	1	中	-5.3	-8.4	3.1	-0.9	-4.3	3.4	-9.7	-12.2	2.5	65	14	51	7	4	3	18.4	26.6	△ 8.2
		下	-9.9	-7.5	△ 2.4	-3.9	-2.9	△ 1.0	-15.9	-12.8	△ 3.1	6	12	△ 7	5	5	0	42.6	31.7	10.9
		上	-8.5	-7.9	△ 0.6	-3.6	-3.2	△ 0.4	-13.4	-12.9	△ 0.5	14	12	2	6	5	1	39.8	28.6	11.2
	2	中	-7.5	-5.7	△ 1.8	-1.6	-1.5	△ 0.1	-13.5	-10.1	△ 3.4	8	18	△ 10	4	6	△ 2	53.7	25.4	28.3
		下	-3.2	-5.6	2.4	-0.1	-0.5	0.4	-6.4	-10.4	4.0	23	9	14	8	3	5	17.8	33.2	△ 15.4
		上	-3.4	-3.1	△ 0.3	1.8	1.1	0.7	-8.5	-7.6	△ 0.9	9	23	△ 14	6	5	1	39.3	36.5	2.8
	3	中	0.7	-1.3	2.0	3.5	3.0	0.5	-2.2	-5.2	3.0	9	12	△ 3	4	3	1	30.5	49.9	△ 19.4
		下	1.7	0.3	1.4	5.5	4.9	0.6	-2.2	-3.6	1.4	28	9	19	6	4	2	37.2	68.2	△ 31.0
		上	3.7	2.5	1.2	8.8	7.1	1.7	-1.5	-1.8	0.3	4	14	△ 10	5	4	1	68.3	58.2	10.1
	4	中	7.0	4.8	2.2	13.3	9.9	3.4	0.7	0.1	0.6	20	20	△ 1	3	3	0	60.0	61.1	△ 1.1
R4		下	9.0	8.2	0.8	16.0	14.1	1.9	2.0	2.0	0.0	9	20	△ 12	4	4	0	86.2	65.8	20.4
		上	10.2	10.3	△ 0.1	15.8	15.8	0.0	4.6	4.9	△ 0.3	51	28	23	6	4	2	62.7	56.9	5.8
	5	中	14.1	11.9	2.2	20.7	17.3	3.4	7.4	7.0	0.4	10	18	△ 8	3	4	△ 1	76.6	59.1	17.5
		下	15.8	14.9	0.9	21.3	20.8	0.5	10.2	9.4	0.8	46	20	26	4	4	0	70.4	82.8	△ 12.4
		上	13.9	16.2	△ 2.3	19.7	21.9	△ 2.2	8.1	10.3	△ 2.2	12	20	△ 9	3	4	△ 1	92.7	63.8	28.9
	6	中	17.0	16.5	0.5	20.9	21.2	△ 0.3	12.9	12.2	0.7	35	28	7	7	4	3	54.9	46.2	8.7
		下	19.9	17.6	2.3	23.6	22.4	1.2	16.2	13.7	2.5	115	24	91	5	3	2	39.7	53.4	△ 13.7
		上	23.5	20.1	3.4	28.4	25.0	3.4	18.5	15.8	2.7	9	40	△ 31	3	4	△ 1	72.3	57.5	14.8
	7	中	22.3	21.1	1.2	26.8	26.0	0.8	17.8	16.7	1.1	32	36	△ 5	3	3	0	49.9	63.6	△ 13.7
		下	22.6	22.5	0.1	27.3	27.2	0.1	17.8	18.2	△ 0.4	1	51	△ 50	1	3	△ 2	67.1	62.5	4.6
		上	22.2	22.8	△ 0.6	25.8	27.7	△ 1.9	18.5	18.3	0.2	110	57	53	4	3	1	35.5	61.9	△ 26.4
	8	中	21.9	21.6	0.3	26.4	25.8	0.6	17.4	17.1	0.3	123	87	36	5	5	0	48.4	42.9	5.5
		下	19.9	20.3	△ 0.4	24.8	25.1	△ 0.3	14.9	15.7	△ 0.8	26	53	△ 27	5	5	0	48.9	58.9	△ 10.0
		上	19.6	20.2	△ 0.6	25.7	24.9	0.8	13.3	14.8	△ 1.5	6	64	△ 59	1	4	△ 3	76.9	50.0	26.9
	9	中	18.3	17.0	1.3	24.0	21.8	2.2	12.5	12.0	0.5	78	53	25	3	5	△ 2	48.8	43.5	5.3
		下	16.3	14.9	1.4	22.4	20.5	1.9	10.1	9.5	0.6	32	32	△ 1	2	3	△ 1	68.6	56.3	12.3
		上	12.7	12.2	0.5	17.8	17.2	0.6	7.6	7.5	0.1	67	47	20	4	5	△ 1	42.5	42.5	0.0
	10	中	11.0	9.2	1.8	15.9	14.1	1.8	6.1	4.4	1.7	21	39	△ 18	5	6	△ 1	44.1	43.9	0.2
		下	8.1	7.9	0.2	13.7	12.6	1.1	2.6	3.0	△ 0.4	26	43	△ 18	4	5	△ 1	53.1	40.9	12.2
		上	5.6	5.9	△ 0.3	9.9	10.0	△ 0.1	1.3	1.9	△ 0.6	8	33	△ 26	4	5	△ 1	28.8	27.0	1.8
	11	中	4.2	2.8	1.4	8.6	6.7	1.9	-0.4	-0.7	0.3	41	37	4	5	6	△ 1	26.0	22.9	3.1
		下	4.8	-0.4	5.2	8.9	2.9	6.0	0.7	-2.8	3.5	46	33	13	7	7	0	26.8	18.9	7.9
		上	-4.6	-2.8	△ 1.8	-1.4	0.5	△ 1.9	-7.9	-5.9	△ 2.0	47	29	18	9	6	3	15.9	15.4	0.5
	12	中	-5.6	-4.3	△ 1.3	-2.5	-0.6	△ 1.9	-8.7	-7.8	△ 0.9	48	25	23	9	6	3	15.4	17.9	△ 2.5
		下	-3.3	-5.7	2.4	0.8	-1.9	2.7	-7.4	-9.4	2.0	20	21	△ 1	6	6	0	18.2	16.0	2.2
5～9月積算			2832.6	2735.8	96.8	3610.8	3507.0	103.8	2045.1	1989.1	56.0	683	611	72	55	58	△ 3	913.4	859.3	54.1
平年比(%)			103.5			103.0			102.8			111.8			94.8			106.3		

注１　滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。　注２　日照時間は太陽電池式（新型）による。　注３　平年値は前10カ年の平均値。　注４．　△印は減を示す。

Ⅲ　事業の推進方向と成果の概要

１．研究部

(1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、切り花の省力栽培に関する試験，花き栽培における労働生産性向上とエネルギー消費量削減の試験を実施する。野菜では、いちごの新品種育成、にんじんの出荷時期拡大，トマト，アスパラガス，かぼちゃ，いちごの栽培法改善試験を実施する。花きと野菜に共通して施設栽培の環境制御にかかる試験を実施する。花きおよび野菜ともに、技術研修Ｇの研修事業を支援する。

①「赤色 LED 照明を利用した花きの省力･品質向上技術」ではトルコギキョウとアスターにおいて花芽形成の抑制効果と，その切り花品質（節数，切り花長）への影響を明らかにした。

②「持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化」では加温ハウスにおけるカーネーション栽培を対象に、炭酸ガス施用と光照射の切り花品質と採花数への影響を検討した。

③「いちご春どり栽培の収益向上に寄与する多収性新品種の育成」では、春どり栽培用に「ゆきララ」並の果実品質を有する多収性いちご品種を育成することを目標に、育成系統の選抜を行った。生産力検定では「空知 39 号」を令和 4 年収穫を以て中止し，「28 交 2-340」を次年度も継続することとした。系統選抜試験では「28 交 3-39」，「30 交 2-126」、「30 交 7-21」を次年度の生産力予備試験に供試することとした。地域適応性検定では、道南農試（北斗市）、豊浦町、比布町におけるいちご検定系統「空知 39 号」の生育・収量などを検定し，収量は高いものの，外観品質の評価が低いため，廃棄し次年度は供試しない。

④「北海道におけるアスパラガス枠板式高畝栽培システムの適性評価」では香川県のハウス栽培で開発された「枠板式高畝栽培システム」の北海道での有効性を明らかにするとともに、本栽培システムに適した多収品種を選定するために，ハウス内に造成した高畝で各品種の収量を比較し，既存品種より高収の可能性のある系統が見られた。

⑤「いちごの輸出拡大を図るための大規模安定生産技術の開発」では夏秋どり品種‘夏のしずく’の北海道における適切な栽培法に資するための苗生産能力等を検討した。

⑥「パイプハウスにおける環境および養分制御による省力多収技術の開発」では無加温ハウスにおける温度制御区において総収量、良果収量を検討し、湿度制御による裂果程度等を明らかにした。

⑦「北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立」では 9～10 月に偏る現行の道産にんじんの収穫・出荷ピークを平準化させ、にんじん加工実需に原料を安定供給するために，加工歩留まりの向上と供給期間の延長を検討した。加工にんじん品種「カーソン」と「紅ぞろい」の播種・収穫時期ならびに貯蔵方法を組み合わせて検討した。

⑧「道産かぼちゃ 3 トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発」では直播・放任条件における各品種の特性を収量および窒素施肥量への反応から検討した。

⑨「たまねぎ有機栽培における育苗技術の開発」では現地（新篠津村）圃場において実規模で稼働した移植機での試作培土の適用性を検討した。

⑩「いちご‘ゆきララ’の大果安定生産技術の現地実証」では定植時の苗の大きさと定植時期について３か所の現地にて実証を行った。

⑪「多品目の露地野菜の収穫に対応したコンベヤキャリア式収穫体系の確立」では中央農試農業システムグループとともに現地関係者との意見交換を行い，収穫負荷軽減に取り組んだ。

(2) 生産技術グループに関する試験

生産技術グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担するとともに、生産現場で発生した病害虫および生理障害の診断を実施している。

1) 栽培環境に関する試験

①「たまねぎ有機栽培における育苗技術の開発」では、結着作用があるベントナイトを 15%(w/w) 添加することにより化学合成糊剤を使わずに培土

が固化し、移植精度の高い育苗培土を作製でき、この培土を使用する場合、播種時の培土充填鎮圧回数は 2 回、ハウス設置時の初期かん水は 2 日に分ける、移植前の最終かん水は 3 日前を目安に行うなどの育苗管理法を示した。令和 4 年度北海道農業試験会議に提案し、指導参考事項となった。

②「青果および加工利用における北海道産さつまいもの品質向上技術の開発」では、道産品は道外主産地品に比べ、焼き芋では粘質で甘い特性で、「べにはるか」「シルクスイート」「パープルスイートロード」の貯蔵性は「ベニアズマ」より優れ、またいずれの品種もキュアリングにより貯蔵期間が延長し、透明あるいは緑マルチの使用により黒色マルチ使用時に比べ収量が優った。令和 4 年度北海道農業試験会議に提案し、指導参考事項となった。

③「北海道のにんじん栽培におけるプラスチックを用いない緩効性肥料の施用技術の開発　栽培におけるプラスチックを用いない緩効性肥料の施用技術の開発　」において、プラスチック非被覆緩効性肥料２種を施肥したにんじんはいずれもプラスチック被覆のエコロング施肥区と同等の収量であった。

④「北海道におけるにんじんの安定生産に向けた携帯型近赤外カメラによる生育診断法の開発」では、NDVI は出芽から 8 月初旬まで漸増するが、窒素吸収量が 8 月以降に急上昇するのに対し、NDVI は茎葉の被覆率が 100%に達する 8 月中旬頃に NDVI はほぼ飽和し、以降はほご横ばいに推移した。

⑤「道産かぼちゃ 3 トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発」では）貯蔵中の腐敗の発生は 1 月調査時より顕著となり、無処理では 80%に達したのに対し、MA では 0%、1MCP 処理では 20%に止まった。

⑥課題対応型支援「製造２年目生分解性マルチの品質確認試験」では、製造１年目および製造２年目生分解性マルチの性能比較試験をスイートコーンで実施した。

⑦「農業資材試験」ではブロッコリーに対する園芸用育苗培土「セルミックス」の育苗適応性について検討し、対照と概ね同等の効果であった。

⑧「生理障害診断試験」では 1 件の診断依頼に対応した。

⑨「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、2 地区 3 箇所の土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。

2）病害虫に関する試験

①「新規ウイルス検査法を導入した道産にんにくのウイルスフリー種苗管理技術」では、：FDA 法は道内に発生する重要なにんにくのウイルス 2 種と 1 属を高感度・短時間で同時検出 することが可能であり、種苗の検査に活用することでウイルスフリー種苗の供給が可能で、防虫ネットによる被覆栽培は、種苗の増殖過程におけるアブラムシ媒介性ウイルスの再感染対策として効果が高かった。令和 4 年度北海道農業試験会議に提案し、普及推進参考事項となった。

②「紫外光（UV-B）を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除法の確立」では、紫外光照射と 2 週間間隔の薬剤散布により、うどんこ病を抑えることができ、紫外光照射区の発病株率と発病程度は毎週薬剤防除より高く、デルフィニウムの生育に対する紫外光照射の影響は見られなかった。

③「果実品質に優れた多収な春どりいちご品種の開発」では、疫病抵抗性は「空知 39 号」と「28 交 2-340」を「中」と判定し、萎黄病抵抗性は「空知 39 号」が「中」、「28 交 2-340」が「強」と判定した。

④「農業資材試験」では、殺菌剤 16 点についてその効果を調査した。また、有効性が認められた殺菌剤 1 点、殺虫剤 1 点が指導参考事項となった。

⑤「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病について、時期ごとの発生量などを調査した。

⑥「農作物病害虫診断試験」では、19 件の診断依頼に対応した。

(3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

1）革新的技術導入による地域支援

①「いちご「ゆきララ」の大果安定生産技術の現地実証」では、「ゆきララ」の収量の変動性に関して、いちごの主産地である比布町（3 カ所）と豊浦町（2 カ所）で植え付け時期および苗質の調査を実施した。「ゆきララ」の適期とされる 9 月に定植する生産者はみられなかった。収穫後の生育調査の結果、遅植えにより花房数が増加することが確認され、その結果「ゆきララ」で安定収量が得られることが確認された。

２．技術普及室

(1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を柱として、花き・野菜研修事業および農業大学校、普及指導員の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

(2) 成果の概要

1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策を積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、現地要望課題の聞き取りなどに参画した。

2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する支援要請活動計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点普及課題、普及課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫の発生に対して、技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施している道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き・野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか花き野菜グループ、生産技術グループ、技術研修グループからの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における、講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、静内農業高校との協力連携によるマイスターハイスクール授業における講義、実習を担当した。また、プロジェクト活動の支援も行った。

4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、農業者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

Ⅳ　試験研究および地域支援等活動の課題名

１．花き野菜に関する試験

⑴赤色 LED 照明を利用した花きの省力・品質向上技術

試験期間：令和 2～4 年
担 当 Ｇ：花き野菜G
目　　的：トルコギキョウとアスターにおいて花芽形成の抑制効果を有する赤色 LED 照明を利用した省力・品質向上技術を開発する。

⑵持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化

試験期間：令和 4～6 年
担 当 Ｇ：花き野菜G，上川農試，道南農試、北総研
目　　的：花き（カーネーション）の加温作型で労働生産性向上と生産物当たり燃料消費量が削減する環境制御技術を確立する。

⑶果実品質に優れ多収な春どりいちご品種の開発

試験期間：令和 3～5 年
担 当 Ｇ：花き野菜G、生産技術G，上川農試，道南農試
目　　的：「ゆきララ」並の果実品質を有する春どり多収いちご品種を育成する（目標収量：「ゆきララ」対比 120%）。

⑷北海道におけるアスパラガス枠板式高畝栽培システムの適性評価

試験期間：令和 2～6 年
担 当 Ｇ：花き野菜G、上川農試
目　　的：香川県で開発された枠板式高畝栽培の北海道での有効性を明らかにするとともに、本栽培方式に適した多収品種を選定する。

⑸いちごの輸出拡大を図るための大規模安定生産技術の開発

試験期間：令和 4～6 年
担 当 Ｇ：花き野菜G
目　　的：いちご生産の端境期となっている夏秋期における生産強化を図るために、四季なり性いちご品種「夏のしずく」の北海道における適切な栽培法を開発し、増収させる。

⑹パイプハウスにおける環境および養分制御による省力多収技術の開発

試験期間：令和 2～4 年
担 当 Ｇ：花き野菜G、道南農試、上川農試、北総研
目　　的：パイプハウスにおける生産性向上のため、ハウス内環境と作物栄養状態のモニタリングによる総合環境制御技術を開発する。

⑺北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立

試験期間：令和 2～5 年
担 当 Ｇ：花き野菜G、十勝農試
目　　的：加工向け品種の播種・収穫時期、貯蔵方法を組み合わせて供給期間の延長をはかり、収穫・出荷ピークを平準化させる。

⑻道産かぼちゃ 3 トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発

試験期間：令和 4～6 年
担 当 Ｇ：花き野菜G、生産技術G
目　　的：一斉収穫と長期貯蔵に適した多収品種を選定し、直播・密植・無整枝等によるかぼちゃの超多収省力栽培法を開発する。

⑼たまねぎ有機培土における育苗技術の開発

試験期間：令和元～4 年度
担 当 Ｇ：生産技術G、花き野菜G
目　　的：化学合成資材を使わずに機械移植可能な育苗培養土を開発し、作成された培養土に対応した育苗管理法を明らかにする。

⑽いちご「ゆきララ」の大果安定生産技術の現地実証

試験期間：令和 4～5 年
担 当 Ｇ：花き野菜G，技術研修G
目　　的：いちご新品種の安定生産のために、各産地の苗質および定植時期を調査し、既存品種より優れた規格内収量を得られる栽培法を現地にて実証する。

⑾ 多品目の露地野菜の収穫に対応したコンベヤキャリア式収穫体系の確立

試験期間：令和 4～6 年

担 当 G：花き野菜G，中央農試
目　　的：露地野菜の収穫において、収穫機より低価格で導入可能なコンベヤキャリアによる搬送方式を取り入れ、収穫に関わる作業時間をかぼちゃとブロッコリーで削減可能な手取り収穫体系を構築する。

２．栽培環境に関する試験

(1)たまねぎ有機栽培における育苗技術の開発

試験期間：令和元年～4 年
担 当 G：生産技術G
目　　的：有機栽培で使用できる培土の組成及び充填方法を検討し、有機栽培における培土固化技術を開発する。

(2) 北海道のにんじん栽培におけるプラスチックを用いない緩効性肥料の施用技術の開発

試験期間：令和 4 年～5 年
担 当 G：生産技術G
目　　的：低脱プラスチックの動向に対応したにんじんの安定生産のために、プラスチックを用いない化学合成緩効性肥料の施用効果を確認し、代替可能性を検証し、その利用技術を開発することを目的とする。

(3) 北海道におけるにんじんの安定生産に向けた携帯型近赤外カメラによる生育診断法の開発

試験期間：令和 4 年～5 年
担 当 G：生産技術G
目　　的：北海道におけるにんじんの安定生産に向けてセンシング技術を活用した生育診断法の確立を目指し、携帯型近赤外カメラを用いたにんじんの生育診断法を開発する。

(4)にんにくに対する生分解性マルチおよび肥効調節型肥料を用いた省力栽培技術

試験期間：令和 2 年～3 年（R3 収穫 R4）
担 当 G：生産技術G
目　　的：北海道のにんにく栽培において生分解性マルチおよび肥効調節型肥料を用いた省力栽培法を開発する。

(5)青果および加工利用における北海道産さつまいもの品質向上技術の開発

試験期間：令和元～3 年（成績会議提出 R4）
担 当 G：生産技術G、ホクレン農総研
目　　的：栽培方法や貯蔵方法の違いがさつまいもの品質に及ぼす影響を解析し、品質目標の作成、加工用途判別の資とする。さらに貯蔵期間中の変化を解析し適切な貯蔵方法を明らかにする。

(6) 道産かぼちゃ 3 トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発

試験期間：令和 4 年～6 年
担 当 G：生産技術G、花き野菜G、中央農試病害虫G・農産品質G、十勝農試生産技術G
目　　的：一斉収穫と長期貯蔵に適した多収品種を選定し、直播・密植・無整枝等によるかぼちゃの超多収省力栽培法を開発する。また、収穫後の調製・貯蔵法を改良し、高品質な道産かぼちゃの長期安定出荷技術を開発する。

(7) ブロッコリーに対する園芸用育苗培土「セルミックス」の育苗適応性

試験期間：令和 4～5 年
担 当 G：生産技術G
目　　的：ブロッコリーに対する園芸用育苗培土「セルミックス」の育苗適応性を検討する。

(8)農作物病害虫生理障害診断・緊急対策試験 ②生理障害の診断

試験期間：令和 2～6 年
担 当 G：生産技術G（各農試と分担）
目　　的：農業改良普及センター、農政部普及指導員等を通じて当場に診断依頼される農作物の栄養・生理障害を診断し、被害軽減のための適切な対策を示す。

(9)農業農村整備事業等に係る土壌調査

試験期間：昭和 40 年～
担 当 G：生産技術G（各農試と分担）
目　　的：北海道が実施する土地改良事業計画に基づき、該当地域の土壌調査を実施する。

(10) 製造２年目生分解性マルチの品質確認試験（課題対応型支援）

試験期間：令和 4 年
担 当 G：生産技術G
目　　的：製造１年目および製造２年目生分解性マ

ルチの性能比較試験を実施する。

３．病害虫に関する試験

(1)新規ウイルス検査法を導入した道産にんにくのウイルスフリー種苗管理技術

試験期間：令和元年～3 年（成績会議提出 R4）
担 当 Ｇ：生産技術Ｇ（上川農試、北大、ホクサン（株）と共同）
目　　的：ウイルスフリー種苗の増殖体制の構築に不可欠なウイルス検査法と再汚染回避技術を確立する。

(2)紫外光（UV-B）を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除法の確立

試験期間：令和 3～5 年
担 当 Ｇ：生産技術Ｇ
目　　的：紫外光（UV-B）を照射した植物に病害に対する誘導抵抗性が発現する仕組みを利用し、栽培期間を通じた紫外光照射を中心としたデルフィニウムのうどんこ病に対する安定的かつ省力的な耕種的防除技術を開発する。

(3)果実品質に優れ多収な春どりいちご品種の開発

試験期間：令和 3～5 年
担 当 Ｇ：花き野菜Ｇ、生産技術Ｇ
目　　的：春どり栽培用に「ゆきララ」並の果実品質を有する多収性いちごの育種に係る、選抜系統の疫病・萎黄病の特性検定（病害抵抗性）と萎凋病抵抗性検定を実施する。

(4)農作物病害虫生理障害診断・緊急対策試験

①病害虫の診断

試験期間：令和 2～6 年
担 当 Ｇ：生産技術Ｇ（各農試と分担）
目　　的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

(5)農業資材試験　殺菌・殺虫剤

試験期間：昭和 45 年～
担 当 Ｇ：生産技術Ｇ（各農試と分担）
目　　的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

(6)病害虫発生予察調査

試験期間：昭和 16 年～
担 当 Ｇ：生産技術Ｇ（各農試と分担）
目　　的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当場ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

４．地域支援に関する試験等

(1)令和 4 年度は、実施していない。

Ⅴ　研修事業の概要

１．概　要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

２．研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農業高校・農業改良普及センター、市町村等への訪問、農業関係団体主催会議にて事業説明を実施した他、場内の専門委員会（研修事業運営委員会）で、計画の策定、事業の円滑な実施・運営等について検討・調整を行った。

(1) 研修事業説明等

1）北海道農業担い手育成センター事業地区別推進会議（当麻町、北見市、釧路市、芽室町、岩見沢市、北斗市、苫小牧市）
2）高校大学等（帯広畜産大学（帯広市）、拓殖大学北海道短期大学（深川市）、北海道文教大学（恵庭市）、旭川大学（旭川市）、大野農業高校（北斗市）、富良野緑峰高校（富良野市））
3）市町村等（赤井川村、厚真町、滝川市、月形町、新ひだか町（三石）、占冠町、砂川市、美幌町）
4）振興局（後志振興局、日高振興局、空知総合振興局）
5）農業改良普及センター（後志、日高、日高西部支所、東胆振支所）
6）その他（原子力環境センター、JA きょうわ）
7）道の駅等へのポスター掲示（芦別市、南富良野町、音更町、芽室町、赤井川村、倶知安町、むかわ町、新冠町、三石町、恵庭市、安平町、江別市、奈井江町、浦臼町、当別町、三笠町、長沼町、石狩市、文京大学）

(2) 事業課との打合せ

1）7 月 28 日
農政部技術普及課、農産振興課より意見聴取

(3) 専門委員会開催内容

1）研修事業運営委員会の構成（令和 4 年）
委員長：鈴木亮子（研究部長）
委　員：山本修・齊藤吉明（総務課）、林哲央・大宮知・田縁勝洋・大久保進一（花き野菜 G）、古館明洋・長田亨・佐々木純（生産技術 G）、菅原章人・八木亮治・齊藤優子（技術研修 G）、川口招宏（上席普及指導員）、佐藤元紀（主任普及指導員）
事務局：技術研修 G
2）開催内容
① 第 1 回委員会（4 月 22 日）
ｱ）協議事項
・総合技術研修
・フォローアップセミナー
・課題解決研修（品目別セミナー等）
ｲ）報告事項
・専門技術研修の受講予定
② 第 2 回委員会（12 月 9 日）
ｱ）協議事項
・ベーシックセミナー
ｲ）報告事項
・うぃず One オンラインセミナー2022 の開催結果
③ 第 3 回委員会（3 月 16 日）
ｱ）協議事項
・令和５年度総合技術研修、新設講義
・実施セミナーの開催結果
・令和５年度課題解決研修の計画
・新技術セミナー掲示ポスター選定

３．北海道花き・野菜技術研修

(1) 専門技術研修

高度な専門技術の習得を目指す技術指導者を対象に、各種分析技術等について個別指導を行った。

1）専門技術研修受講者数

区　分	受講者数
花き栽培コース	2 名
野菜栽培コース	4 名
土壌肥料コース	5 名
病害虫コース	2 名
合計（延べ）	13 名

2）専門技術研修受講者及び研修内容

氏　名	所　属	期　間	主な研修内容
東野冴樹	ホクレン 資材課	6/6～6/10 8/1～8/5	野菜栽培管理
鳥山航進			
中田 輝	ホクレン 農総研	6/7～6/9 8/2～8/4	野菜栽培管理
前川里瑛			
伊藤圭介	ホクレン肥料(株)	6/20～7/1	土壌肥料管理
齊藤貴大			
三井健人	ホクレン 技術普及課		
菅野拓郎			
松田芽唯	拓殖大学	11/24～11/25	土壌肥料管理
池前啓太	ホクレン 技術普及課	6/20～7/1	病害虫管理
安井太郎			
安斎哲也	藤井ファーム・ラボ株式会社	3/14	花き栽培管理
中元真衣			

(2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

1) 期間　5 月 16 日～9 月 30 日

2) 受講者数　　野菜コース　2 名

3) 総合技術研修の受講者

氏　　名	所属等	備　　考
井上　大輝	農業大学校	野菜コース
佐々木慎哉	農業大学校	野菜コース

4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時　間
講義	・土壌肥料(古館研究主幹、長田主査、野田研究主査(生産技術 G)) ・病害虫防除(佐々木主査、藤根研究主任(生産技術 G)、佐々木研究職員（上川農試生産技術 G）) ・施設資材利用等(外部講師) ・主要野菜栽培技術(林主幹、大久保主査、漆畑研究職員(花き野菜 G)、野田研究主査(生産技術 G)、川口上席普及指導員(技術普及室)、菅原研究主幹、八木主査(技術研修 G)) ・主要花き栽培技術(大宮主査(花き野菜 G)、佐藤主任普及指導員(技術普及室)) ・雑草防除の基礎(外部講師) ・野菜の流通と市場システム(川口上席普及指導員(技術普及室)) ・青果物鮮度の内部品質と保持(野田研修主査(生産技術 G)) ・花きの流通と市場システム(佐藤主任普及指導員(技術普及室)) ・経営管理(外部講師) ・農地制度の基礎(外部講師) ・農業金融制度(空知総合振興局) ・GAP 制度（北海道農政部） ・その他(鈴木研究部長、川口上席普及指導員(技術普及室)))	57 時間
演習	・主要野菜栽培等(林主幹、大久保主査(花き野菜 G)、川口上席普及指導員(技術普及室)、菅原研究主幹、八木主査(技術研修 G)) ・土壌診断(野田研究主査(生産技術 G)) ・病害虫防除技術(佐々木主査、藤根研究主任(生産技術 G)、佐々木研究職員（上川農試生産技術 G）) ・青果物の内部品質と鮮度保持(野田研究主査(生産技術 G)) ・園芸資材利用法(外部講師) ・雑草防除技術(外部講師) ・ハウス組立(菅原研究主幹、八木主査(技術研修 G)) ・作業機械操作実習(北主任他(技術研修 G)) ・施肥設計の計算（古館研究主幹（生産技術 G））	102 時間
実習	・主要野菜の栽培管理(野菜 11 品目(講師は講義・演習と同じ))	263 時間
その他	集出荷施設、先進農家等	20 時間
	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	214 時間
合計		656 時間

(3) 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

1) 期間　1 月 23 日～1 月 27 日（5 日間）

2) 受講者数　花き 7 名、野菜 24 名、計 31 名

3) 基礎技術研修の実施内容

講　義　名	時　間	講　師
花き栽培概論	花き 1 時間	大宮主査
野菜栽培概論	野菜 1 時間	田縁主査
経営管理概論	2 時間	外部講師
土壌改良と施肥管理	2 時間	古館研究主幹
花壇苗	花き 1 時間	佐藤主任普及指導員
にんにく	野菜 1 時間	阿部研究職員
カーネーション	花き 1 時間	大宮主査
ねぎ	野菜 1 時間	林研究主幹
トルコギキョウ	花き 1 時間	鈴木研究部長
メロン	野菜 1 時間	八木主査

新規就農ガイダンス	2時間	外部講師
園芸資材の特性と利用	2時間	菅原研究主幹
スターチス	花き1時間	鈴木研究部長
トマト・ミニトマト	野菜1時間	大久保主査
ゆり	花き1時間	大宮主査
かぼちゃ	野菜1時間	八木主査
デルフィニウム	花き1時間	佐藤主任普及指導員
だいこん、にんじん	野菜1時間	田縁主査
道内の新規野菜	2時間	外部講師
花き・野菜の病害虫	2時間	佐々木主査
宿根かすみそう	花き1時間	鈴木研究部長
ブロッコリー	野菜1時間	田縁主査
露地花き類	花き1時間	鈴木研究部長
アスパラ	野菜1時間	大久保主査
草花類	花き1時間	佐藤主任普及指導員
キャベツ	野菜1時間	八木主査
農地制度の基礎	2時間	外部講師
きく	花き1時間	大宮主査
いちご	野菜1時間	田縁主査
シクラメン	花き1時間	佐藤主任普及指導員
ほうれんそう	野菜1時間	林研究主幹
働きやすい選花場	花き1時間	佐藤主任普及指導員
野菜の流通と内部品質	野菜1時間	野田研究主査
花き市場と販売	花き1時間	佐藤主任普及指導員
さつまいも	野菜1時間	野田研究主査
花きの輸送と品質保持	花き1時間	鈴木研究部長
スイートコーン	野菜1時間	八木主査
養液栽培	1時間	漆畑研究職員
技術開発と普及	1時間	川口上席普及指導員

(4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーを開催した。

1) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援及び研修受講者間の情報交流を目的に開催した。

◇開催日　令和4年6月24日
◇場　所　花・野菜技術センター
◇内　容
・研究概要の紹介
・研修ほ場の紹介
・意見交換
◇受講者数　6名

2) うぃず One オンラインセミナー2022

うぃず One の一層の普及を目指し、うぃず One の現状を確認するとともに、導入が進んでいるトマト・ミニトマトや、新たに取り組まれている野菜の栽培事例を紹介する目的でセミナーを実施した。

◇開催日　10月5日、10月12日
◇場　所　オンライン開催
◇内容　講演・総合討議
10月5日
（1） 講演「養液栽培システムうぃず One とは」全国農業協同組合連合会
（2） 講演「うぃず One に関する最近の試験研究について」花・野菜技術センター
（3） うぃず One を用いたミニトマトの栽培事例紹介（農家取材動画／（株）大雪ファーム（上川町））
（4） 総合討議
10月12日
（1）講演「ホクレン農総研におけるうぃず One の取組について」ホクレン
（2）うぃず One を用いたきゅうりの栽培事例紹介（農家取材動画／鷹栖町あったかファーム）
（3）うぃず One を用いたピーマンの栽培事例紹介（農家取材動画／垂水　氏（南幌町））
（4）総合討議
◇受講者数　124名

3) ブロッコリーWEB セミナー2023

北海道におけるブロッコリー生産の拡大を図るため、省力化の技術や取組について紹介するセミナーを実施した。

◇開催日　令和5年1月31日
◇場　所　オンライン開催
◇内容　講演・討議
（1）講演「一斉収穫に適したブロッコリーの品種特性」花・野菜技術センター 研究部 花き野菜グループ 主査（野菜）田縁 勝洋
（2）講演「ブロッコリー直播栽培における出芽特性と収穫期」道南農業試験場 研究部 生産技術グループ 研究職員 菅原 魁人
（3）講演「ブロッコリー直播栽培における収量特

性」十勝農業試験場 研究部 生産技術グループ 主査（園芸）坂口 雅己
（4）講演「加工業務用ブロッコリーに有望な大型花蕾生産について」農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究統括官室 研究専門職 高橋 徳 氏
（5）講演「ブロッコリー収穫機 HB1250」ヤンマーアグリジャパン株式会社 北海道支社アグリサポート部 柳田 梨帆 氏
（6）講演「ブロッコリー収穫機 HB1250 の作業性能について」十勝農業試験場 研究部 農業システムグループ主査（栽培システム）吉田 邦彦
（7）講演「ブロッコリー栽培における一貫した作業の省力化」音更町農業協同組合 販売部 青果課課長 山岸 晃雄 氏
（8）討議・質問コーナー
◇受講者数 193 名

4）うぃず One 実地研修会

北海道における養液栽培の普及を更に促進するため、うぃず One の栽培管理システムに関する実地研修会を開催した。

◇開催日 令和 5 年 3 月 1 日～3 月 2 日
◇場 所 講堂、研修温室
◇内容
3 月 1 日 講師：全国農業協同組合連合会
【午前】講演「養液栽培システムうぃず One とは」
【午後】実習 ①育苗、②定植前準備、③うぃず One の設置、④施肥・灌水管理
3 月 2 日 講師：全国農業協同組合連合会
【午前】実習 ⑤片付け、⑥ミニシステムのメンテナンス、⑦作物別の応用例、⑧その他
【午後】導入検討会
◇受講者数 5 名

5）花・野菜新技術セミナー2023

新たに開発した花・野菜の品種や栽培技術などの研究成果を発表し、地域への速やかな普及定着を図るため、オンラインセミナーを開催した。

◇開催日 令和 5 年 2 月 27 日
◇場 所 オンライン開催
◇内 容 新技術伝達
（1）「秋切りトルコギキョウの赤色 LED 照明による省力・品質向上技術」大宮主査
（2）「半促成長期どり作型トマトにおける環境・養分制御技術を用いた省力多収技術」漆畑研究職員
（3）「化学合成糊剤を使わないたまねぎ育苗培土の作成法および育苗管理法」長田主査
（4）「加工利用における北海道産さつまいもの適性評価と貯蔵・栽培法」野田研究主査
（5）「にんにくの新規ウイルス検査法（FDA 法）によるウイルスフリー種苗管理技術」佐々木主査
◇受講者数 113 名

４．研修ほ場等作付概要

注）総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

区分	品 目	品 種	作 型
品種比較	アスパラガス	ガインリム、ゼンユウガリバー、ウエルカム、ウエルカム AT	春どり露地（定植 4 年目）
栽培法	スイートコーン	ゴールドラッシュ ゴールドラッシュ	露地直播（８月どり） 露地移植
品種比較	だいこん	貴宮、蒼の砦、晩々G	春まき
品種比較	レタス	結球:シルル、マイヤー､春 P 非結球:ノーチップ､晩抽レッドファイヤー	春夏まき
品種比較	ブロッコリー	SK9-099、おはよう、ジェットドーム、スターラウンド	晩春まき
品種比較	ほうれんそう	カイト、トリトン	雨よけ初夏まき

Ⅵ　研究発表並びに普及事項

１．研究報告・資料

(1)研究報告

○Sasaki, J., Kawakubo, S., Kim, H., Kim, O., Yamashita, K., Shimura, H., Masuta, C.　Leek yellow stripe virus can adjust for host adaptation by trimming the N-terminal domain to allow the P1 protein to function as an RNA silencing suppressor. The Plant Pathology Journal. 38:383-394(2022)

○藤根　統・白井佳代．露地栽培加工用トマトの疫病防除法．北海道立総合研究機構農試集報．107：25-32（2023）

○Mishina, K., Suzuki, T., Oono, Y., Yamashita,Y., Zhu, H., Ogawa, T., Ohta, M., Doman, K., Xu, W., Takahashi, D., Miyazaki, T., Tagiri, A., Soma, C., Horita, H., Nasuda, S., De Oliveira, R., Paux, E., Chen, G., Pourkheirandish, M., Wu, J., Liu, X., Komatsuda, T. Wheat Ym2 originated from Aegilops sharonensis and confers resistance to soil-borne Wheat yellow mosaic virus infection to the roots. The Proceedings of the National Academy of Sciences. 120: https://doi.org/10.1073/pnas.2214968120 (2023)

(2)口頭発表

○阿部純也・柳田大介・佐々木純・田縁勝洋．干ばつ条件下でのマルチ色の違いがニンニクの生育に及ぼす影響．北海道園芸研究談話会報．56：12-13（2022）

○Kawakubo, S., Sasaki, J., Kim, H., Kim, O., Yamashita, K., Shimura, H., Masuta, C. A large deletion in P1 protein of leek yellow stripe virus is a result of adaptive evolution to expand their host range. 日本ウイルス学会　学術集会（2022.11.13-15）

○八木亮治・坂口雅己．ジベレリンおよびジベレリン合成阻害剤がナガイモの不萌芽に及ぼす影響．北海道園芸研究談話会報．56：36-37（2023）

(3)著書・資料

○田縁勝洋．北海道野菜地図（その 46）．北海道野菜地図編集委員会（北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会）共著．(2023)．

○大宮　知．北海道フラワーガイド（その 31）．北海道フラワーガイド編集委員会（北海道農業協同組合中央会，ホクレン農業協同組合連合会）共著．(2023)．

○林　哲央．北海道の施肥最適化マニュアル（北海道協同組合通信社）共著および監修．（2022）

○野田智昭．北海道の施肥最適化マニュアル（かぼちゃ・レタス）．北海道協同組合通信社．共著．ニューカントリー2022 年秋季臨時増刊号：157-159(2022)．

○Horita, H. Diseases of Burdock. In Handbook of Vegetable and Herb Diseases. (ed) Elmer, WH., McGrath, M., McGovern, RJ. Springer Link. Switzerland. DOI ： https://doi.org/10.1007/978-3-030-35512-8. (2023)．

○八木亮治．ナガイモ寒冷地栽培．農業技術大系野菜編追録 47 号．基 59-基 72.

(4)専門雑誌・記事等

○漆畑裕次郎．養液栽培システム「うぃず One」の大玉トマト栽培法．農家の友．74(7)：68-70（2022）

○漆畑裕次郎．養液栽培システム「うぃず One」を用いたトマトの２本仕立て栽培法．アグリポート．37(6・7)：23-24（2022）

○長田　亨．園芸作物の施肥対応技術．農家の友．75(3)：92-94（2023）

○八木亮治．農学校１年１組　施設園芸の時間．メロン栽培の管理．ニューカントリー．69(11)：56-57(2022)

○八木亮治．園芸基礎講座．ながいもの基本技術．グリーンレポート．635：6-7

(5)新聞記事・広報誌、放送等

○林　哲央．営農塾「メロンの長期冷蔵技術」．日本農業新聞．4 月 7 日（2022）

○漆畑裕次郎．養液栽培システム「うぃず One」を用いた２本仕立て栽培法．農業共済新聞．9 月 21 日（2022）

(6)出願公表

該当無し

(7)品種登録

該当無し

(8)受賞

大久保進一．第83回（令和4年）北農賞．報文部門：無加温パイプハウスを利用した北海道における野菜の周年栽培技術の開発．2022

２．印刷刊行物

該当無し

３．普及事項

(1)普及奨励事項

該当無し

(2)普及推進事項

○にんにくの新規ウイルス検査法（FDA法)によるウイルスフリー種苗管理技術

(3)指導参考事項

○秋切りトルコギキョウの赤色LED照明による省力・品質向上技術
○半促成長期どり作型トマトにおける環境・養分制御を用いた省力多収技術
○化学合成糊剤を使わないたまねぎ育苗培土の作製法および育苗管理法
○北海道産さつまいもの貯蔵・加工特性と栽培技術の改善
○にんじんの黒葉枯病に対するカスガマイシン・銅水和剤の効果
○すいかのワタアブラムシに対するスルホキサフロル水和剤Ｆの効果

(4)研究参考事項

該当無し

Ⅶ　その他

１．職員の研修・技能講習、資格取得

(1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
鈴木　亮子	新任部長級研修	道総研本部	Web	R4.4.26-27
阿部　純也	新採用職員研修	道総研本部	札幌市	R4.4.11-13
菅原　章人	新任研究主幹研修	道総研本部	Web	R4.5.11～12
八木　亮治	新任主査研修	道総研本部	Web	R4.7.26～27
齊藤　優子	女性職員のキャリアデザイン	北海道庁	札幌市	R4.11.7～8
菅原　章人	安全管理者選任時研修	中央労災防協会	旭川市	R4.7.20～21
菅原　章人	リスクアセスメント担当者研修	中央労災防協会	旭川市	R5.2.10
八木　亮治	刈払機取扱作業者安全衛生教育	林業労災防協会	深川市	R4.4.28
井口　岳人	フォークリフト技能講習	砂川自動車学校	砂川市	R4.7.22
北　和宏	フォークリフト技能講習	砂川自動車学校	砂川市	R4.7.22
井口　岳人	危険物取扱者保安講習	危険物安全協会	滝川市	R4.9.6
井口　岳人	アライグマ捕獲従事者研修	滝川市	滝川市	R5.1.31
齊藤　吉明	アライグマ捕獲従事者研修	滝川市	滝川市	R5.1.31

(2) 職場研修等（集合・伝達研修）

研　修　等	実施月日	内　　容	人数
採用時安全研修	R4.4.1	雇入れ時の教育（技術研修グループ）	10 人
職場研修	R4.5.19	農作業安全研修	46 人
職場研修	R4.9.15	林業試験場安全大会	20 人
職場研修	R4.11.8	冬道の交通安全研修会	32 人
職場研修	R4.11.9	職場のコミニュケーション向上等研修会	28 人
職場研修	R4.12.19	風通しの良い職場づくりを目指して	30 人

(3) 資格取得

取　得　者	取　得　免　許	交　付	取得月日
菅原　章人	危険物取扱者免状（乙種４類）	北海道知事	R4.11.11
菅原　章人	第一種衛生管理者	東京労働局長	R4.12.21

２．見学・参観

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、令和４年度（2022 年度）の見学・視察等の受け入れは中止。

３．研修生の受入れ（研修事業以外）

(1) 普及指導員研修

1)スペシャリスト強化研修（野菜）　6/27～7/1

研修項目	対　象　者		担　当
主要野菜の現場対応に必要な課題解決手法の習得	空知農改南東部支所	本間　雅之	技術普及課、技術普及室
	後志農改北後志支所	小林　千江	技術研修Ｇ、花き野菜Ｇ
	胆振農改東胆振支所	藤本　麻里	生産技術Ｇ
	渡島農改本所	安藤　大輔	
	渡島農改本所	竹田　伊織	
	上川農改大雪支所	田中暢伸尚	
	上川農改名寄支所	山本　大貴	
	十勝農改十勝東部支所	若林　壱弥　計8名	

2)スペシャリスト研修（花き）　6/27～7/1

研修項目	対　象　者		担　当
主要花きの現場対応に必要な課題解決手法の習得	空知農改南西部支所	栗山　賢門	技術普及課、技術普及室
	空知農改中空知支所	宮﨑　友弘	技術研修Ｇ、花き野菜Ｇ
	空知農改北空知支所	小森　基文　計３名	生産技術Ｇ

3)高度専門技術研修（野菜）　6/13～17,7/25～29,8/29～9/2

研修項目	対　象　者		担　当
野菜栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	石狩農改石狩北部支所	山崎　和也	技術普及課、技術普及室
	上川農改本所	草野　裕子	技術研修Ｇ、花き野菜Ｇ

	網走農改本所　　飯田　麻衣　計３名	生産技術Ｇ

4)高度専門技術研修（花き）　6/13～17,7/25～29,8/29～9/2

研修項目	対　象　者	担　当
花き栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	未実施	技術普及課、技術普及室 技術研修Ｇ、花き野菜Ｇ 生産技術Ｇ

5)新任者早期養成研修

新任者早期養成研修Ⅱ　Ａ班（11/9～11）

研修項目	対　象　者	担　当
自己課題研修の進度確認と普及指導能力の向上	空知農改本所　小玉紗瑛ほか、新任2年目の普及職員17名	技術普及課、技術普及室

新任者早期養成研修Ⅱ　Ｂ班（11/16～18）

研修項目	対　象　者	担　当
自己課題研修の進度確認と普及指導能力の向上	空知農改本所　宗像耕生ほか、新任2年目の普及職員17名	技術普及課、技術普及室

４．委員会活動

(1)各専門委員会の構成

委員会名	委員長	事務局	委　員
業務委員会	技術研修Ｇ 研究主幹	－	齊藤吉明（総務課）、漆畑裕次郎（花き野菜Ｇ）、 野田智昭、藤根　統（生産技術Ｇ）、 北 和宏（技術研修Ｇ）
環境整備委員会	花き野菜Ｇ 研究主幹	－	髙﨑真利奈（総務課）、佐々木純（生産技術Ｇ）、 八木亮治（技術研修Ｇ）
図書委員会	生産技術Ｇ 研究主幹	－	齊藤吉明（総務課）、大宮　知（花き野菜Ｇ）、 長田　亨（生産技術Ｇ）、北村憲吾（技術研修Ｇ）
研修事業運営委員会	研究部長	技術研修Ｇ 菅原章人、 齊藤優子、 北村憲吾	山本　修、齊藤吉明(総務課)、林　哲央、大宮 知、田縁勝洋、大久保進一(花き野菜Ｇ)、古館明 洋、長田　亨、佐々木純(生産技術Ｇ)、八木亮治(技 術研修Ｇ)、川口招宏、佐藤元紀(技術普及室)
情報システム委員会	生産技術Ｇ 研究主幹	－	山本　修（総務課）、阿部純也（花き野菜Ｇ）、 佐々木純（生産技術Ｇ）、北村憲吾（技術研修Ｇ）

（令和４年４月１日現在）

(2)活動内容

1)業務委員会

ア．委員会の開催

・通常：4月1日～11月30日、毎週1回

・冬期：12月1日～3月31日、毎月1回

・拡大：4月21日

イ．主な検討事項

・週間・月間作業計画

・ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画

ウ．主催行事

・蒔付祝い　中止
・収穫祭　中止

2)環境整備委員会

ア．委員会の開催
・第1回(令和4年4月13日)：本年の活動内容の協議
・第2回(令和5年3月16日)：本年度の活動報告と反省

イ．十勝道路沿いゴミ拾い(令和4年4月26日)：滝川市役所のクリーンデーに連動して実施。

ウ．敷地内樹木の管理：圃場管理職員により随時実施。

エ．正門前アナベルの秋の掃除刈り：業務委員会経由で圃場管理スタッフが10月に実施。

オ．ラベンダー花壇の刈り込み：研究部長および花き野菜Gパートタイム職員により10月まで随時実施

3)図書委員会

ア．委員会の開催
・第1回委員会(令和4年4月20日)：予算執行予定、活動案の策定

イ．場の広報に関すること
・年次計画によるパンフレット作成の非実施年のため、なし

エ．図書の整備（購入）および管理に関すること
・図書資料の受け入れ
・図書資料の購入

4)研修事業運営委員会

Ⅴ　研修事業の概要参照

5)情報システム委員会

ア．委員会の開催
・第1回委員会(令和5年3月8日)：ウェブサイトの修正

イ．法人情報システム（含むホームページ）の管理・運営に関すること
・道総研ウェブアクセシビリティに対応したホームページの修正

５．公開デー2021

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

６．講師等の派遣

○林　哲央．おはなのおはなし．イオン滝川店(2022.8.3)
○大宮　知．第42回北海道花き品評会切り花の部．札幌花き地方卸売市場（2022.7.14）
○堀田治邦．診断から始まる植物病害の防除対策（植物菌類学特論　2回）非常勤講師．東京大学大学院（2022.7.29）.
○堀田治邦．病害虫管理学（環境農学コース1年15回）非常勤講師．北海道拓殖短期大学(2022.9.9～2023.1.13).
○堀田治邦．施設園芸の病害防除および土壌消毒．令和4年度施設園芸施肥防除セミナー(2023.1.12).
○八木亮治．メロン【おくり姫】栽培講習会．北いぶきメロン生産組合（2023.2.15）

７．各種委員

○林　哲央．北海道園芸研究談話会総務幹事.
○林　哲央．北海道農作物病害虫・雑草防除ガイド作成検討委員
○大宮　知．北海道フラワーガイド編集委員
○大宮　知．北海道花き懇話会監事
○大宮　知．当別町データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業推進会議オブザーバー
○田縁勝洋．北海道野菜地図編集委員.
○大久保進一．北海道経済部地熱・温泉熱アドバイザー
○鈴木亮子．北海道農作物病害虫・雑草防除ガイド作成検討委員
○鈴木亮子．北海道指定有害動植物等総合防除計画策定検討委員
○八木亮治．北海道園芸研究談話会研修幹事.
○八木亮治．北海道園芸研究談話会会報編集委員
○菅原章人．北海道園芸研究談話会会報編集委員

Ⅷ　自己点検への対応

事　　項	件数等		
	R4	R3	R2
各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数	0	0	0
研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	6	2	1
同参加者数	450	Web	900
研究会等の開催件数	0	0	0
展示会等への出展件数	0	3	1
研究報告書の発行件数	0	0	0
技術資料の発行件数	0	0	1
その他紙媒体発行件数	1	1	0
普及組織との連絡会議等開催件数	0	4	0
企業等へ訪問し広報活動した件数	0	0	0
行政や企業等で活用された成果の数	0	0	0
設備使用の件数	0	0	0
研究成果発表会・企業向けセミナーによる公表件数	5	1	0
研究会における公表件数	0	0	0
学会誌等への投稿件数①学会誌	3	3	6
学会誌等への投稿件数②雑誌（専門誌、商業誌）	10	27	26
学会誌等への投稿件数③書籍	6	0	1
学会誌等への投稿件数④新聞	2	4	2
学会誌等への投稿件数⑤その他	0	0	2
研究報告書での発表件数	1	1	0
学会やシンポジウム等での発表件数	3	9	5
ホームページ等による公表件数	0	0	0
プレスリリース、定例報道懇談会の件数	0	0	0
学会役員・委員件数	13	8	7
技術相談の実施件数	264	420	265
技術指導の実施件数	11	279	7
講師等派遣の実施件数	7	8	4
技術審査の実施件数	0	0	0
研修会・講習会の開催件数	4	2	1
同参加人数	258	web	web
研修者の受入人数	103	51	0
道関係部との連絡会議等の開催件数	8	8	14
市町村との意見交換等の開催件数	5	4	4
関係団体との意見交換等の開催件数	7	8	2
道民意見把握調査の回答数	170	34	0
出前授業の実施件数	0	0	0

事　　項	件数等		
	R3	R2	R1
国内研修Ⅱ（外部講師招聘・受け入れ件数）	0	0	0
国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
国内研修Ⅱの派遣件数	2	0	0
道民向けイベントの開催件数	0	0	0
同参加人数	0	0	0
国際協力事業等への協力件数	0	0	0
同参加人数	0	0	0
災害等に関係した技術指導件数	0	0	0
災害等に関係した委員派遣人数	0	0	0
ホームページ発信・更新件数	10	8	6
メールマガジン発信件数	3	3	1
フェイスブック発信件数	9	9	1
その他電子媒体発信件数	9	9	1
職場研修実施件数	4	3	6
グリーン購入の金額（千円）	70	100	2,704
視察・見学者の受入件数	0	0	0
同人数	0	0	0

ISSN　1346-7506

令和４年度（2022）

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター年報

令和５年６月　発行

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構
農業研究本部　花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川 735 番地
Tel. 0125-28-2800(代表・総務課)
Tel. 0125-28-2291(花き野菜グループ)
Tel. 0125-28-2292(生産技術グループ病虫)
Tel. 0125-28-2293(生産技術グループ栽培環境)
Tel. 0125-28-2211(技術研修グループ)
Tel. 0125-28-2212(技術普及室)
Fax. 0125-28-2165 （総務課）
Fax. 0125-28-2299 （研究部、技術普及室）